

令 地	和 域	4 年	度 医	第 療	2 回	松 本	本 医	療 会	圈 議	資料 1
令	和	5	年	2	月	6	日			

# 地域医療構想に関する将来意向調査の結果等について

# 地域医療構想に関する将来意向調査の概要

- 各医療機関の対応方針の策定や検証・見直しに向けた議論等を進めるため、県内の一般・療養病床を持つ公立・公的・民間病院及び診療所を対象に、「地域医療構想に関する将来意向調査」を実施。
- 今回の調整会議では、様式1の集計結果の概要を中心に説明させていただきます。(様式2の集計結果の概要については、令和5年度第1回調整会議で説明させていただく予定です。)

## ■ 調査期間

令和4年12月2日(金) ~ 令和5年1月13日(金)

## ■ 調査項目

### 【様式1】

#### 1. 自院の現状

- (1) 許可病床数(令和4年7月1日時点)
- (2) 医師・看護職員の職員数(令和4年7月1日時点)
- (3) 診療科目(令和4年7月1日時点)
- (4) 入院基本料の届出状況(令和4年7月1日時点)
- (5) 自院の特徴と課題

#### 2. 今後の方針

- (1) 自院の今後の方針(今後の圏域における役割、具体的な今後の方針)
- (2) これまでの調整会議に提出した2025年における対応方針の変更意向の有無
- (3) これまでの調整会議に提出した2025年における対応方針を変更する(しない)理由
- (4) 2025年・2030年における許可病床数の予定
- (5) 2030年における対応方針について
- (6) 地域(圏域)の課題と将来あるべき姿について

### 【様式2】

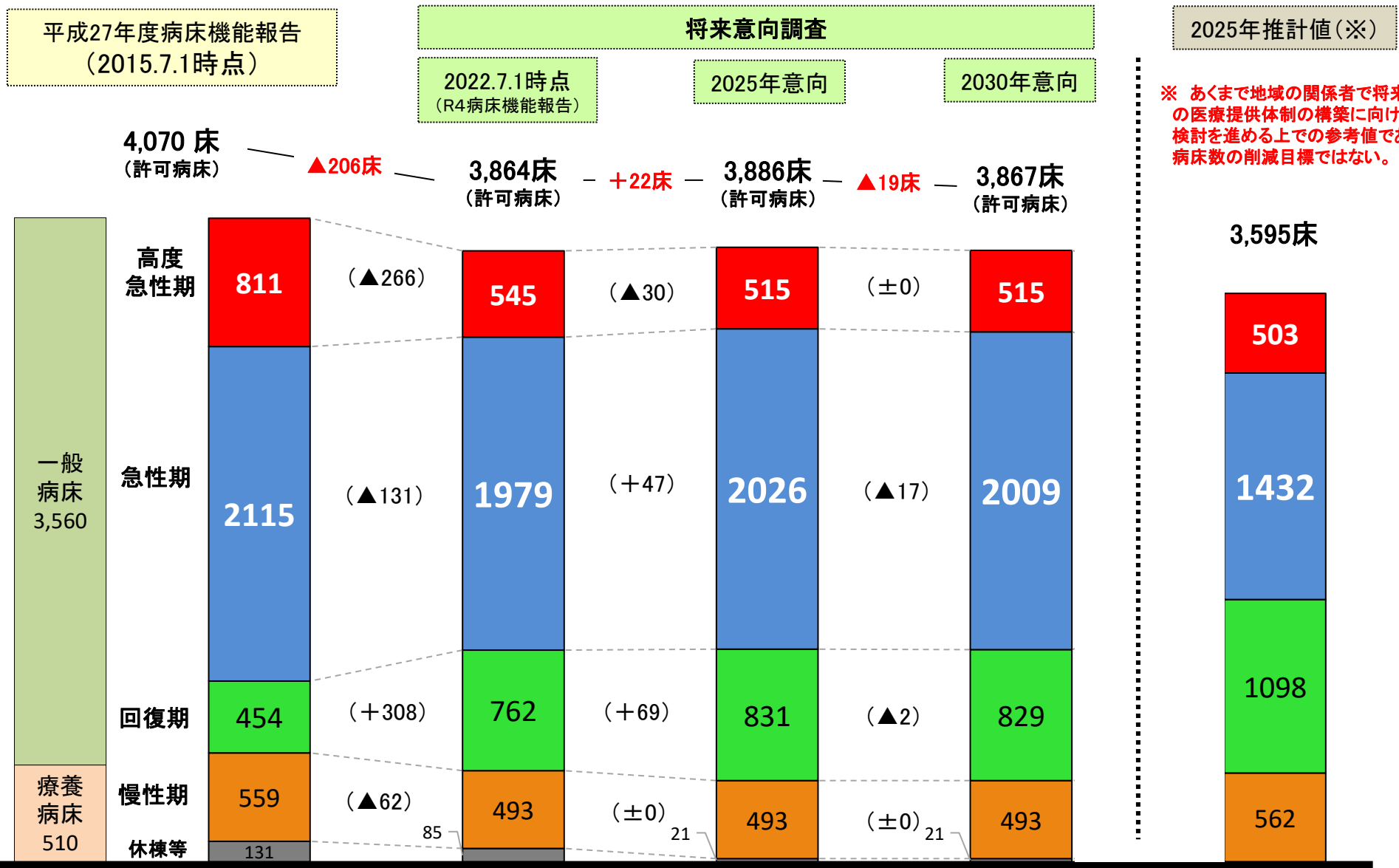
#### 1. 現在担っている役割(※)(令和4年7月1日時点)

#### 2. 2025年・2030年に担う予定の役割(※)の意向

※5疾病、3事業、新型コロナ、在宅など

# 様式1 調査結果 — 機能別病床数の意向 — (松本医療圏)

- 2025年の意向を集計した結果、2022年7月1日時点と比較すると、急性期・回復期病床の増加により、総病床数は22床増加する見込み。
- 2030年の意向を集計した結果、2025年の意向から総病床数では19床減少(急性期▲17、回復期▲2)する見込みとなっている。



※ あくまで地域の関係者で将来の医療提供体制の構築に向けた検討を進める上での参考値であり、病床数の削減目標ではない。

# 様式1 調査結果 — 機能別病床数の意向 — (松本医療圏:医療機関別(病院))

- 2025年までに、信大病院で休棟再開及び高度急性期からの転換により急性期の増床、相澤病院で急性期の増床、松本協立病院で急性期から回復期への転換、中川病院で急性期の増床、相澤東病院で回復期の増床が行われる意向がある。
- 2025年から2030年までの間には、松本市立病院でダウンサイジングを伴う移転建替えが行われる見込み。

【凡例】 A:2022年7月1日時点の機能別病床数 B:2025年における機能別病床数の意向 C:2030年における機能別病床数の意向

病院名	高度急性期				急性期				回復期				慢性期				休棟等				介護施設等への転換				計										
	A	B	C	B-A	C-B	A	B	C	B-A	C-B	A	B	C	B-A	C-B	A	B	C	B-A	C-B	A	B	C	B-A	C-B	A	B	C	B-A	C-B					
信州大学医学部附属病院	435	401	401	-34	0	178	276	276	98	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64	0	0	-64	0	0	0	0	0	0	677	677	677	0	0
相澤病院	34	38	38	4	0	380	380	380	0	0	42	42	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	456	460	460	4	0
まつもと医療センター	8	8	8	0	0	229	229	229	0	0	50	50	50	0	0	150	150	150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	437	437	437	0	0
安曇野赤十字病院	8	8	8	0	0	263	263	263	0	0	45	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	316	316	316	0	0
長野県立こども病院	60	60	60	0	0	140	140	140	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	200	200	200	0	0
松本協立病院	0	0	0	0	0	140	91	91	-49	0	59	108	108	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	199	199	199	0	0
丸の内病院	0	0	0	0	0	130	130	130	0	0	69	69	69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	199	199	199	0	0
松本市立病院	0	0	0	0	0	111	111	94	0	-17	82	82	80	0	-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	193	193	174	0	-19
桔梗ヶ原病院	0	0	0	0	0	45	45	45	0	0	60	60	60	0	0	40	40	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	145	145	145	0	0
城西病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	99	99	99	0	0	30	30	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	129	129	129	0	0
穂高病院	0	0	0	0	0	59	59	59	0	0	20	20	20	0	0	48	48	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	127	127	127	0	0
塩尻協立病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42	42	42	0	0	57	57	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	99	99	99	0	0
上條記念病院	0	0	0	0	0	34	34	34	0	0	0	0	0	0	0	59	59	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	93	93	93	0	0
松本中川病院	0	0	0	0	0	47	51	51	4	0	35	35	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	82	86	86	4	0
一之瀬脳神経外科病院	0	0	0	0	0	47	47	47	0	0	30	30	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	77	77	77	0	0
藤森病院	0	0	0	0	0	39	39	39	0	0	30	30	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69	69	69	0	0
中村病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27	27	27	0	0	29	29	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56	56	56	0	0
相澤東病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	74	74	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	74	74	20	0
塩尻病院	0	0	0	0	0	40	40	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	40	40	0	0
松南病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39	39	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39	39	39	0	0
松本歯科大学病院	0	0	0	0	0	31	31	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	31	31	0	0
<b>病院計</b>	<b>545</b>	<b>515</b>	<b>515</b>	<b>-30</b>	<b>0</b>	<b>1913</b>	<b>1966</b>	<b>1949</b>	<b>53</b>	<b>-17</b>	<b>744</b>	<b>813</b>	<b>811</b>	<b>69</b>	<b>-2</b>	<b>452</b>	<b>452</b>	<b>452</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>64</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>-64</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>3718</b>	<b>3746</b>	<b>3727</b>	<b>28</b>	<b>-19</b>

# 様式1 調査結果 ー 機能別病床数の意向 ー (松本医療圏:医療機関別(有床診療所))

- 2025年までに、佐藤耳鼻咽喉科医院が急性期8床を2床まで削減する見込み。
- 2025年から2030年までの間は、特に機能転換等を行う有床診療所はない。

【凡例】 A:2022年7月1日時点の機能別病床数 B:2025年における機能別病床数の意向 C:2030年における機能別病床数の意向

有床診療所名	高度急性期				急性期				回復期				慢性期				休棟等				介護施設等への転換				計										
	A	B	C	B-A	C-B	A	B	C	B-A	C-B	A	B	C	B-A	C-B	A	B	C	B-A	C-B	A	B	C	B-A	C-B	A	B	C	B-A	C-B					
神應透析クリニック	0	0	0	0	0	19	19	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	19	19	0	0					
肛門外科渡辺医院	0	0	0	0	0	19	19	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	19	19	0	0					
柏原クリニック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	19	19	0	0	0	0	0	0	0	19	19	19	0	0					
相澤健康センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	18	18	0	0	0	0	0	0	0	18	18	18	0	0					
横西産婦人科	0	0	0	0	0	15	15	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	15	15	0	0					
松塩クリニック透析センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	12	12	0	0	0	0	0	0	0	12	12	12	0	0					
佐藤耳鼻咽喉科医院	0	0	0	0	0	8	2	2	-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	2	2	-6	0					
野中眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	8	0	0					
高橋医院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	8	0	0					
神谷小児科医院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	6	0	0	0	0	0	0	0	6	6	6	0	0					
山田眼科医院	0	0	0	0	0	5	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	5	0	0					
井門泌尿器科医院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	0	0					
象先堂田村眼科医院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0					
裏川眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0					
山本耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0					
<b>有床診療所計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>66</b>	<b>60</b>	<b>60</b>	<b>-6</b>	<b>0</b>	<b>18</b>	<b>18</b>	<b>18</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>41</b>	<b>41</b>	<b>41</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>21</b>	<b>21</b>	<b>21</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>146</b>	<b>140</b>	<b>140</b>	<b>-6</b>	<b>0</b>
<b>総計</b>	<b>545</b>	<b>515</b>	<b>515</b>	<b>-30</b>	<b>0</b>	<b>1979</b>	<b>2026</b>	<b>2009</b>	<b>47</b>	<b>-17</b>	<b>762</b>	<b>831</b>	<b>829</b>	<b>69</b>	<b>-2</b>	<b>493</b>	<b>493</b>	<b>493</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>85</b>	<b>21</b>	<b>21</b>	<b>-64</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>3864</b>	<b>3886</b>	<b>3867</b>	<b>22</b>	<b>-19</b>

# 様式1 調査結果 — 今後の圏域における役割の意向と具体的な今後の方針 1/4 — (松本医療圏)

○ 各医療機関の今後の役割の意向と具体的な今後の方針は以下のとおり。

## 【凡例：今後の圏域における役割の意向】

- ①：重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関
- ②：救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関
- ③：在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関
- ④：回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関
- ⑤：長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関
- ⑥：特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）
- ⑦：かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関

医療機関名	病診区分	今後の圏域における役割の意向(◎は主たる役割)							具体的な今後の方針
		① 高度・ 専門	② 軽症 急性期	③ 地ケア	④ 回リハ	⑤ 長期 療養	⑥ 特定 診療	⑦ かかり つけ	
信州大学医学部附属病院	病院	◎						○	・県内全域から高難度手術症例や重症患者の受け入れを進め、同時に、高度救命救急センターとしての機能を果たすべく、緊急手術の患者受け入れを積極的に行う。眼科系・耳鼻咽喉系・内分泌系疾患等の専門性の高い患者も引き続き全県から患者を受け入れる。循環器系の重症患者及び術後ICU管理が必要な患者の増加が見込まれており、令和6年度までの病棟改修にあわせ、現在14床のHCUを16床に増床する予定である。診療・教育・研究を遂行する大学病院としての使命を果たすため、これらの方向性に変更はない。
相澤病院	病院	◎	○		○				・救急、高度・急性期医療を提供する基幹型病院としての機能をより強化する。 ・がん患者は松本医療圏を越える広域圏からも患者を集約し、早期診断・治療を可能とするため、手術室の増設を実施する。 ・これまでの救急医療に加え、さらなる重症患者の受入・管理機能を強化するため、集中ケア病棟(ECU・HCU)の改修とともに、HCUの増床を実施する。 ・今後、増加が予想される不整脈治療や緊急手術に対応するため、専門医の確保と血管内治療機能の充実をはかる。 ・患者負担の少ない経鼻・鎮静内視鏡を拡大するため、内視鏡センターの改修を実施する。 ・低侵襲手術、日帰り手術の導入・拡大により、早期退院及び入院→外来への移行により、病床を有効活用する ・一般外来は、紹介を中心とした専門外来の充実と逆紹介を推進する。
まつもと医療センター	病院	◎	○	○		○		○	・救急患者の積極的な受入を行い、引き続き地域の急性期医療を担うとともに、地域医療支援病院として紹介・逆紹介を推進し、さらに令和4年度より制度が新設された「紹介受診重点医療機関」に求められる機能の充実を図っていく。併せて、在宅療養後方支援病院として地域でのチーム医療に貢献していく。 ・重心・神経難病・結核等のセーフティネット医療の提供を引き続き推進するとともに、さらに、高齢化に伴う保護者及び介護者の介護負担を軽減するため、レスパイト入院等の需要を満たせるよう対応していく。 ・がん診療・血液疾患・小児疾患・神経疾患・呼吸器疾患・骨運動器疾患・リハビリテーション等の専門領域の医療についても、機能を充実させ継続して提供していく。
安曇野赤十字病院	病院	◎	○	○	○				・規模縮小や機能変更を検討する必要性は感じるが今回の新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえて、感染症の流行に備えた体制を即応で構築する必要がある。パンデミック時でも逼迫しない病床数などの医療資源は確保したい。 ・今年度から安曇野市から支援を受けており適正な病床数や機能の変更にあたっては市との協議も必要である。



# 様式1 調査結果 — 今後の圏域における役割の意向と具体的な今後の方針 2/4 — (松本医療圏)

○ 各医療機関の今後の役割の意向と具体的な今後の方針は以下のとおり。

医療機関名	病診区分	今後の圏域における役割の意向(◎は主たる役割)							具体的な今後の方針
		① 高度・ 専門	② 軽症 急性期	③ 地ケア	④ 回りハ	⑤ 長期 療養	⑥ 特定 診療	⑦ かかり つけ	
長野県立こども病院	病院	◎	○			○			・引き続き当院が担う役割を果たすため、診療機能の充実、関係医療機関との連携体制の強化等を図る。
松本協立病院	病院	◎	○	○				○	・2024年をめどに、急性期病棟の一部を回復期または慢性期病床に転換し、地域の慢性期医療や退院後の在宅医療を更に幅広く担っていく。 ・同時にかかりつけ医としての役割や、救急患者の受け入れも分担している今の機能を継続していく。
丸の内病院	病院		○	○	○		◎	○	・多数の入院、手術を行う整形外科、お産を扱う産婦人科、慢性期の心不全患者、リウマチ、在宅診療、がん治療緩和ケア治療を行う予定です。整形外科は人工関節置換術、脊椎手術、肩関節、手の手術と長野県でも有数の患者を扱っており、継続して行く予定です。また当番日輪番制に引き続き参加し、救急患者を診察します。当院はリハビリテーションが充実しており、リハビリも力を入れていく予定です。
松本市立病院	病院		○	◎	○				・令和8(2026)年度に開院予定の新病院(180床)では、急性期病床100床、回復期病床80床(回復期リハビリ32床、地域包括ケア48床)を計画している。
桔梗ヶ原病院	病院		○	◎	○	○		○	・今後は現場の人員補強および教育の充実を行い、地域からの救急患者(サブアキュート)の対応すること病院のベッド稼働率の改善に寄与するものとする。
城西病院	病院		○	○	◎	○	○	○	・一般科:回復期、療養、在宅療養支援に向けたリハビリテーションの充実 ・精神科:救急、一般、療養の充実、社会復帰施設等を利用した支援
穂高病院	病院		◎	○	○	○	○	○	・現状の当院の機能は、地域のニーズに即していると考えている。現機能の充実を図り、地域の皆さんが一生を通じて通院も入院もできる頼れるかかりつけ医として医療サービスの提供をしていきたい。
塩尻協立病院	病院		○	◎		○		○	・現行の当院の役割は地域から求められているものと考えており、継続していく。
上條記念病院	病院			○		◎		○	・現状の地域包括ケア病棟(サブアキュート、ポストアキュート)、医療療養病棟(難病等の医療依存度の高い患者)、介護医療院(要介護者の高い方)の受入機能を維持し、地域の医療ニーズに変化が生じた場合、病床数の変更で対応してまいります。
松本中川病院	病院		○	○	○		◎	○	・糖尿病においては新しい治療を取り入れ運動療法を基本とし、新薬も取り入れ、また注射治療の方においては24時間グルコースモニターも開始しており、よりよい血糖コントロールを目指しています。合併症においては脳疾患、心疾患においては他病院等と連携し、最近では他病院循環器科と連携し血管病変については、特に下肢における下肢の壊疽に対応して行きたいと思っており、現在血管病変の循環器専門医の非常勤として採用しております。糖尿病の「腎症重症化予防」にも糖尿病専門医(2名)や栄養士等とも協力し、透析医療にも力を入れて取り組んでいます。オンラインHDも可能となっております。 ・さらに、眼科も含め総合的な糖尿病の診療体制を行っております。今後さらにスタッフ等も補充して充実化を図っていきます。
一之瀬脳神経外科病院	病院	◎	○		○				・当院は脳卒中について、診断、手術を含む治療、リハビリを通し、急性期から在宅まで一貫してフォローできる体制づくりを構築し対応していく。
藤森病院	病院		◎	○				○	・地域のかかりつけ病院として健診から看取りまで患者さんを診療し、軽症救急患者さんの急性期医療を担っていく。
中村病院	病院			◎				○	・法人内の介護施設と密な連携を図るとともに地域のケアマネージャー、各病院の地域連携室等との連携体制を強化することにより、当該地区の地域包括ケアシステムの中核を担うことを目指す
相澤東病院	病院		○	◎	○			○	・現在も近隣の居宅事業所、訪問看護ステーションとの連携会議を行っていますが、より地域の医療・福祉の関係者からの意見・要望を伺って在宅医療支援病院として当該地域の中心的な役割を担って行きたい。

# 様式1 調査結果 — 今後の圏域における役割の意向と具体的な今後の方針 3/4 — (松本医療圏)

○ 各医療機関の今後の役割の意向と具体的な今後の方針は以下のとおり。

医療機関名	病診区分	今後の圏域における役割の意向(◎は主たる役割)							具体的な今後の方針
		① 高度・ 専門	② 軽症 急性期	③ 地ケア	④ 回りハ	⑤ 長期 療養	⑥ 特定 診療	⑦ かかり つけ	
塩尻病院	病院		◎	○					2022年に地域包括ケア病床を20床から27床へと拡大し、地域の医療を支える病院として、引き続き、整形外科疾患や外傷、軽症の救急医療の受入等の機能を発揮していきたい。
松南病院	病院		○	○			◎		精神科救急及び児童思春期の対応 内科病棟では長期治療が必要な人への入院治療
松本歯科大学病院	病院		○				◎		当病院は顎顔面領域、歯科疾患に特化した急性期病院であり、他の医科病院では扱うことの難しい症例を受け入れている。今後も長野県全体を対象として、今までと同様に、歯科大学の附属病院に求められている社会的役割を果たしていく。 また、将来的には歯科のない病院における周術期口腔機能管理等を実践していきたいと考えている。
神應透析クリニック	診療所	○			○		◎	○	血液維持透析患者の維持透析を継続する。バスキュラーアクセスの作製、修復、管理などを継続する。血液透析に関わる専門的な治療を中心に行っていく。自院通院中の透析患者で肺炎などクリニックで管理できる状態の患者であれば、治療していく。廃用リハビリテーションを中心としたリハビリテーションをすすめていく。
肛門外科渡辺医院	診療所						◎		現状維持
柏原クリニック	診療所							◎	近隣地域の医療施設との連携により、循環器疾患を持つ患者さんを既存のCTや心エコーなどを活用してサポートしていきたいと考えております。
相澤健康センター	診療所						○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化に伴う労働人口の高齢化に対応した健康維持に努めていく</li> <li>・高齢者の健康寿命延伸を目指し、病気にならない予防活動に力を注ぐ。特に認知症や運動機能低下を防ぐための検査と予防に努める</li> <li>・循環器系の検査を強化し、心疾患を早期に発見し、早期治療につなげる</li> <li>・多様化する健康志向を捉え、ニーズに合った健診内容の拡充を図る</li> <li>・併設する病院との連携を強化し、一層の早期治療につなげる</li> <li>・生活習慣病健診の推進と効果的な保健指導により健康増進を図る</li> <li>・質の高い検診を求めるインバウンドの受入れを積極的に行う</li> <li>・データ活用により、病気にならない身体作り(未病・予防)に努める</li> <li>・18床の病床を活用し、多用化するニーズ(高齢者・遠隔地・インバウンドからの受診)に応える</li> <li>・人口の減少と少子高齢化と言う社会構造に見合った健診施設となり、人口が減少しても多くの利用者から選ばれる健診施設となる</li> <li>・経営母体である社会医療法人慈泉会は相澤病院を核として地域の医療分野・健康増進分野・介護分野までをカバーしている。当センターが健診分野を充実することにより、必要な方へは早期に病院の治療につなげQOLを高めることができる。また利用者の健康リスクを発見し、健康相談や保健指導によって病気にならないための予防活動を行う。フレイルや老化など生活障害のリスクを抱える高齢者に対する予防は介護分野と連携して行うことができる。健診事業と予防医療により、住民が安心して暮らせるためのヘルスケアの一翼を担っていく。質の高い健診医療を行う上で現在の病床は欠かせない。</li> </ul>



# 様式1 調査結果 — 今後の圏域における役割の意向と具体的な今後の方針 4/4 — (松本医療圏)

○ 各医療機関の今後の役割の意向と具体的な今後の方針は以下のとおり。

医療機関名	病診区分	今後の圏域における役割の意向(◎は主たる役割)							具体的な今後の方針
		① 高度・ 専門	② 軽症 急性期	③ 地ケア	④ 回りハ	⑤ 長期 療養	⑥ 特定 診療	⑦ かかり つけ	
横西産婦人科	診療所						◎		引き続き分娩医療機関として中信地区の産科医療を担っていきたい
松塩クリニック透析センター	診療所						◎	○	現状維持
鳥山眼科医院	診療所						◎		引き続き現状の機能を担う
佐藤耳鼻咽喉科医院	診療所		○				◎		病棟縮小を検討中です。
野中眼科	診療所						◎		地域医療機関として医院での診療はもとより往診等も積極的に行なっていきたい。
高橋医院	診療所		○	○				◎	方針の変更はない。
神谷小児科医院	診療所							◎	現状機能を維持し、赤ちゃんから二十歳まできめ細かな診療に従事していきたい。
山田眼科医院	診療所						◎		現状維持
井門泌尿器科医院	診療所						◎		現状維持
象先堂田村眼科医院	診療所				○			◎	医療従事者の確保を継続しかかりつけ医として継続的に役割を果たしていく。
裏川眼科	診療所	○	○				◎	○	引き続き、現状の機能を維持する。
山本耳鼻咽喉科	診療所							◎	現状維持

# 様式1 調査結果 — 各医療機関が抱えている課題 1/3 — (松本医療圏)

○ 共通している課題としては、**医師やコメディカル等の医療従事者の継続的な確保、働き方改革への対応、医療機関間の更なる連携等**が挙げられる。

医療機関名	病診区分	自院の課題
信州大学医学部附属病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病床稼働率が平成27年度の88.2%から平成28年度以降大幅に減少し、令和2年度は80.9%、令和3年度は79.0%と推移している。平均在院日数の短縮による影響や、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響、一般病棟改修の影響も大きい。令和6年度末の改修完了に向けて検討が必要と考えている。一方で、平成30年度の南病棟(包括先進医療等)の稼働開始に伴い、手術件数(平成28年度:6,497件、令和3年度:7,263件)、新規入院患者(平成28年度:15,502件、令和3年度:16,264件)は継続的に増加しており、令和元年に設置したHCUの増設により、重症患者に対してよりスムーズに対応できるよう計画している。今後は、当院で急性期医療を受けた後の患者受入れ先となる回復期・慢性期病床を有する医療機関との更なる連携が必要と考えている。また、働き手不足が加速する中で、高度医療提供体制を維持するためには、看護師をはじめとする医療従事者の確保は必須であり、重要な課題と考えている。</li> </ul>
相澤病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢・超高齢患者の増加、新型コロナウイルス感染症の影響</li> <li>・75歳以上の入院患者割合は45.2%(5,169人)で、そのうち71.4%(3,691人)は緊急入院患者である。この場合の平均在院日数は20.5日で、予定入院(8.1日)に比べ約12日長く、病床占有状況は約50%と、常時、在院患者の半数が75歳以上・緊急入院患者で占められている。</li> <li>・疾患構成は、誤嚥性肺炎・大腿骨骨折・尿路感染症・心不全・脳梗塞の上位5疾患合計で約40%である。</li> <li>・入院経路は自宅からが78%、施設・他病院からが22%である。一方、退院先は、自宅52%、他院への転院23%、施設入所15%、死亡11%で、約37%が施設又は他病院への入所・転院となる。自宅から入院し、再び自宅に戻ることができる患者は約67%である。</li> <li>・施設入所者が、入院加療後に元の施設に戻ることができるのは約67%で、それ以外は転院となるケースが多い。他病院へ転院となった場合の平均在院日数は約27日であるが、転院決定から転院までに掛かる日数は約14日間である。</li> <li>・加えて、季節変動の影響から、冬季(11月~3月)の75歳以上・緊急の新入院患者数は、それ以外の時期に比べ、1日あたり0.5~1人多いことが確認されている。</li> <li>・また、新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、2病棟の一部(重症3床、中等症15床+空床2、最大で43床+空床6)をコロナ対応として確保していることから、感染拡大時に、一般の緊急・予定入院患者のための空床確保が困難となる。</li> <li>・このような状況に対し、当院では、入院時から入退院支援室スタッフ(看護師・MSW)が介入し、多職種協働で退院支援に取り組んでいる。自宅退院する患者に対しては地域の在宅支援チームと退院前カンファレンスを行い、在宅への切れ目のない移行を実践している。また、スムーズな転院が可能となるよう後方支援病院と連携している。</li> <li>・このような退院支援を実践しているが、上記複合的な要因により、高齢患者の在院日数長期化の是正には限界が有り、当院の使命である救急、高度・急性期医療の提供への影響が懸念される。</li> </ul>
まつもと医療センター	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩尻、松本南部地域とのさらなる医療連携強化及び充実</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対応に伴う医療従事者の勤務負担の増大、及び働き方改革への対応として新たな医療従事者の確保を図っていく必要あり。</li> <li>・救急患者受入体制の強化及び充実(特に令和3年度から常勤医師が不在となった脳神経外科については、新たな医師の確保が必要)</li> <li>・障害者医療提供体制の強化及び充実</li> </ul>
安曇野赤十字病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師確保、医師の働き方改革への対応のため、現在の医療提供体制の維持が困難。</li> <li>・各診療科を揃えての病院運営は困難。</li> <li>・地域での役割分担のために医療連携をさらに推進する必要がある。</li> </ul>
長野県立こども病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化及び小児疾患動向の変化に対応し効率的な病棟運営を図るため、運用病床の集約化・重点化を検討中。</li> <li>・医師の働き方改革への対応に必要な医師の増員を図るとともに、勤務体制の見直し及びタスク・シフト等を検討中。</li> </ul>
松本協立病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の人口動態や患者動向はもちろん、国の医療施策や地域医療構想をはじめとしたポジショニングにおいて、急性期治療や専門治療(医療機器もか)の集約化が一層進み、急性期疾患患者の確保とそれによる経営基盤の安定化の面ではますます厳しくなる。経営構造の転換と人的リソースをはじめとした経営資源の効率化と組織変革が求められることになる。</li> <li>・上記構造変化の中での医師確保や要請、看護師をはじめとした医療従事者確保は、ますます困難になることが考えられる。</li> <li>・合わせて「医師の働き方改革」対応で、今と同水準の医師数ではとても医療継続が難しくなり、タスクシェアやタスクシフトだけではなく、医療の縮小も視野に入れなければならない。</li> </ul>
丸の内病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内の診療科の専門化が進んでいます。医師の高齢化が進んでおり、後継医師、若手医師の確保が必要と思います。</li> </ul>

# 様式1 調査結果 — 各医療機関が抱えている課題 2/3 — (松本医療圏)

○ 共通している課題としては、**医師やコメディカル等の医療従事者の継続的な確保、働き方改革への対応、医療機関間の更なる連携等**が挙げられる。

医療機関名	病診区分	自院の課題
松本市立病院	病院	<p>・当院は昭和23年に村立の診療所として開設された。その後、地域住民のニーズに応える形で昭和60年には150床に増床し、名称も波田総合病院と改称した。平成14年には感染症病床6床を加え220床となった。さらに、平成22年の松本市との合併を経て、24年に松本市立病院と名称変更した。その後、26年に回復期リハビリテーション、28年に地域包括ケア病棟を開設するなど病院機能の見直しを行い、平成30年には病床数を199にダウンサイジングした。課題は、以下の点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.現在の病院建物は築35年以上が経過しており、老朽化、狭隘化が進んでおり、令和8年度開院予定で新病院建設計画が進んでいる。</li> <li>2.車で30分以内に、内科・外科・小児科・産婦人科を標榜する総合病院がなく、旧波田町時代から二次救急告示病院として一般急性期医療を担ってきた。一方で、松本市との合併後は市街地に存在する高度急性期病院での治療が終了した患者を受け入れ、回復期リハビリテーションや在宅医療支援を行っている。今後も一般急性期医療と回復期医療の両立を図っていく。</li> <li>3.今後需要が高まると想定されるフレイル診療について、全市的な取り組みとして行政、医療機関と協力しながら連携体制を構築する。</li> <li>4.政策医療の一つとして、へき地診療所支援をさらに進める。</li> <li>5.分娩件数の減少が著しい産科の診療体制について検討する。</li> </ol>
桔梗ヶ原病院	病院	<p>I. ベッド稼働率の管理が難しいこと 入院診療として、亜急性期、回復期、慢性期の患者の入院診療に対応している。近年は患者の高齢化により(1)入院が長期化して在宅に戻れない患者が多い(2)入院の経過の中で死亡するケースが多い。結果として、以前のように他院からの転院を前提としたベッド稼働率の管理が難しい。</p> <p>II. 救急患者の受け入れが限定的であること 現場のマンパワーの不足から、救急患者(サブアキュート)に即時対応する力が限定されている。</p>
城西病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の確保(看護・介護、調理師など)</li> <li>・建物、設備の老朽化への対応</li> <li>・地域連携の推進によるベットコントロールと退院支援</li> </ul>
穂高病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療従事者(特に医師)の確保。</li> <li>・働き方改革を進めながら、医療の質と量を保つこと。</li> </ul>
塩尻協立病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師看護師をはじめ継続的な医療従事者の確保。特に医師の高齢化が進み後継者対策が必要。</li> <li>・病院建設後23年目を迎え、施設の老朽化が進み大規模改修が必要。また15年後位に病院建物のリニューアルも検討。</li> </ul>
上條記念病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性期医療や在宅医療を希望する医師の確保。介護職員不足、夜勤できる看護師不足が困難であります。</li> </ul>
松本中川病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力的な医療従事者の確保</li> <li>・足等血管病変、壊疽の患者様が増えており、充実した診療体制が取れるようにスタッフの確保が必要である</li> <li>・常勤の循環器専門医の確保</li> <li>・コロナ禍でもあり、透析室の個室確保、スタッフの休憩場所等の十分な拡充、診療体制の拡充</li> <li>・糖尿病専門医、糖尿病療養指導士、透析専門医等は確保しているが、糖尿病の予防活動、糖尿病腎症の重症化予防等にも力を入れていきたいと思っており、診療充実の為認定看護師等の確保を行いたい</li> <li>・これらのため、できれば専門医療の充実のために、実現は難しいと思われるが、一般病床4床程度の確保が必要である</li> </ul>
一之瀬脳神経外科病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳神経外科を中心とした病院であるため、脳外科疾患以外の特に内科疾患などが併発している、または、併発した場合の受け入れ、対応が難しい。ただし近隣病院との調整ができており、上記のような場合は、早期診断、治療が行える体制ができています。</li> </ul>
藤森病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師、看護師の職員不足があり、特に整形外科の常勤医が不在となっている。</li> </ul>
中村病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師人員が手薄のため、在宅医療への拡大が難しい状況である</li> </ul>
相澤東病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた病床数であり、コロナ禍にて在宅サービスに繋ぐことが困難なケースもあり常に空き病床を担保出来ないため、かかりつけ医、急性期の病院からの受入に時間を要することがある。</li> <li>・在宅療養されている患者においても医療度が高く介護サービス(ショートステイ)では対応が厳し方もありますので、増床申請しコロナ後の後方支援を含めて地域医療に貢献して行きたい。また、マンパワーの充実も図って行きたいと考えている。</li> <li>・訪問診療、訪問看護、居宅療養管理指導、地域でのサロン活動など、外部に出向いて在宅医療を支えるべく活動を増やす計画であり、在宅での看取りについてもさらに増やしていきたいと考えている。</li> </ul>
塩尻病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急の受け入れも積極的に行っているが、マンパワー不足により応じられない救急もある。</li> </ul>

# 様式1 調査結果 — 各医療機関が抱えている課題 3/3 — (松本医療圏)

○ 共通している課題としては、**医師やコメディカル等の医療従事者の継続的な確保、働き方改革への対応、医療機関間の更なる連携等**が挙げられる。

医療機関名	病診区分	自院の課題
松南病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療従事者の確保</li> <li>・施設の老朽化</li> <li>・長期入院患者の退院先</li> </ul>
松本歯科大学病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者及び小児の手術症例の待機患者を減少させること。</li> </ul>
神應透析クリニック	診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が進むと高齢の透析患者が脳梗塞や骨折などを発症し、通院困難になってしまうことがあり、自宅での生活も難しくなってくる。なるべくそのような事態にならないように患者のリハビリをすすめていくとともに、そのような事態に直面した場合は慢性期病院や老人ホームとの連携をしていく必要がある。</li> </ul>
肛門外科渡辺医院	診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>
柏原クリニック	診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は地域住民の健康をサポートするため、人間ドックの立ち上げ、透析患者の受け入れや高齢者施設との連携をより強化するために有能な医療スタッフを育成・確保していきたいと考えております。</li> </ul>
相澤健康センター	診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働人口の高齢化と健診に対する多様化する個人のニーズに対応すること</li> <li>・治す医療は重要であるが、その前段において病気にならないための未病ケア・予防医療を強化すること</li> <li>・集団や一律で行われている健診業務から脱却し、必要な人に必要な検査を提供する個別健診の充実を図ること</li> <li>・高齢者に多い大腸癌や肺癌などの早期発見と治療につなげること</li> <li>・腎臓病や糖尿病の一次予防を行い治療に結びつけること</li> <li>・健診標準フォーマットの普及に取り組むこと</li> <li>・PHRIによるデータの一元化において個人データの活用から健康増進につなげること</li> </ul>
横西産婦人科	診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な医療従事者・従業員の確保</li> </ul>
松塩クリニック透析センター	診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>
鳥山眼科医院	診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染の危険性あるため、現在は入院手術はできるだけ控えている。</li> </ul>
佐藤耳鼻咽喉科医院	診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の流行に対し、人材面、設備・機材の面で対応が難しく、特に感染症流行に対応できなかったスタッフの退職もあり、欠員の補充ができず、今後のあり方を再検討しているところです。</li> </ul>
野中眼科	診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>
高橋医院	診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発熱外来を開設したことにより、業務が増えている。</li> </ul>
神谷小児科医院	診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間診療の施設が多くなったためか、時間外の患者様が減少している。</li> </ul>
山田眼科医院	診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの手術が日帰り手術ですが、入院が必要のときのために有床にしていますが、最近入院事例がありません。</li> </ul>
井門泌尿器科医院	診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有能な医療人材不足</li> </ul>
象先堂田村眼科医院	診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病床機能に関しては現在、人材不足により休棟中なので今後はそちらを稼働させていくことが課題。</li> </ul>
裏川眼科	診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者様の待ち時間短縮を図りたい。</li> </ul>
山本耳鼻咽喉科	診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一向に収束の気配のないコロナ過、進行する少子高齢化社会において耳鼻咽喉科に求められる役割とは何かを今一度考えなくてはならない。</li> </ul>



# 様式1 調査結果 — 地域(圏域)の課題と将来あるべき姿について 1/2 — (松本医療圏)

- 任意回答でお答えいただいた内容は以下のとおり。
- 地域の課題としては、疾病構造などの外部環境の変化を見据えた更なる医療機関同士の機能分化と連携、高齢化に伴う独居世帯の増加に対応する基盤整備(在宅療養が困難な患者の受け皿確保) などが挙げられている。
- あるべき姿としては、基幹病院と地域密着型病院を明確にした機能分化と連携、地域の医療機関・介護施設等の様々な関係機関や行政が連携し、医療介護や生活に対する切れ目のないサポートができる体制 などが挙げられている。

医療機関名	病診区分	地域(圏域)の課題と将来あるべき姿
信州大学医学部附属病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全県の医療体制の維持・確保と医療の質を向上させるため、必要なデータの収集等による、疾患ごとのネットワーク整備の推進が必要である(例えば、各医療機関における対応可能な疾患・病態・管理等のデータを収集し、それをを用いて紹介・逆紹介を円滑に進める基盤を構築する、等)。</li> <li>・また、急性期医療を受けた後の患者受け入れ先となる回復期・慢性期病床を有する医療機関との更なる連携が必要で、医療機能分化を効果的に進めるには、行政が中心となって引っ張っていくことが重要と考えている。その際には、医療経済実態調査等のデータを用いて、回復期・慢性期病床への機能転換による経営面の効果(メリット)／影響を示し誘引することも必要と考える。</li> </ul>
相澤病院	病院	<p><b>【地域(圏域)の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の総人口が、今後、増加から減少に転じること、高齢患者の増加は今後も一定程度続くこと等、外部環境の変化に対応するための医療機関の機能分化が進展していない。</li> <li>・各医療機関が、今後予想される医療需要を想定した機能整備より、得意な医療を優先する傾向にある。この結果、診療機能が分散するため、医療提供体制の非効率化、医師・スタッフの非効率な配置が存在する。</li> <li>・診療機能に偏りがある(必要な機能を持たない)二次救急病院が存在し、結果的に一部の医療機関に負担が掛かっている。</li> <li>・在宅患者数は今後も増加し、2035年以降にピークを迎えることが予想されるが、平時の診療(訪問・往診等)や緊急時の受入体制が整備されていない。</li> <li>・高齢者世帯、独居世帯が増加する中で、特に終末期に対応する基盤が整備されていない。</li> </ul> <p><b>【あるべき姿】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度、急性期機能を担う基幹型病院と、地域包括ケアを主導する地域密着型病院を明確にし、機能分化を行うと共に、連携機能を強化する。</li> </ul>
まつもと医療センター	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少の社会情勢の中にあって、当院が立地する松本市南部(村井地区)、塩尻市北部(広丘・吉田地区)は人口が増加傾向にある。近隣医療機関との連携・機能分担が一層求められ、当該地域の救急医療を担う体制構築が必要である。</li> </ul>
安曇野赤十字病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当地域は人口の推移に大きく変化がない地域であるが高齢化の進展等による疾病構造の変化に対応する必要がある。</li> <li>・松本圏域の医療機関は松本市内に集中しているため、災害などのリスク分散のためには当地域唯一の公的総合病院である当院が必要と考える。</li> </ul>
松本協立病院	病院	<p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数としては比較的恵まれた医療機関が存在しているが、市街地であっても高齢化しかも独居の方が増大し、医療アクセスだけではなく、暮らしに直結した介護やケアが為されることも困難になってくる。どこの地方も同様であるが。</li> </ul> <p><b>【将来あるべき姿】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の病院や介護施設、様々な機関や行政が連携し、医療介護や生活に対する切れ目のないサポートができる。</li> </ul>
丸の内病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松本広域医療圏は人口が減少し、高齢化が進みます。運動器疾患、循環器疾患、リハビリテーション機能、在宅診療の需要が見込まれると思います。</li> </ul>
松本市立病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学病院をはじめ複数の民間病院もあり医療資源の豊富な松本市街地と、当院が立地するような車で30分程離れた医療資源の乏しい中山間地では、病院の果たす役割も異なる。このような地域においても一般急性期医療は必要で、長年その役割を公立・公的病院が担ってきた。病院機能を単に「急性期」と「回復期」に2分するのではなく、地方においては急性期、回復期、さらに在宅医療を担えるような多機能病院が必要だと考える。</li> </ul>

# 様式1 調査結果 — 地域(圏域)の課題と将来あるべき姿について 2/2 — (松本医療圏)

- 任意回答でお答えいただいた内容は以下のとおり。
- 地域の課題としては、疾病構造などの外部環境の変化を見据えた更なる医療機関同士の機能分化と連携、高齢化に伴う独居世帯の増加に対応する基盤整備(在宅療養が困難な患者の受け皿確保)などが挙げられている。
- あるべき姿としては、基幹病院と地域密着型病院を明確にした機能分化と連携、地域の医療機関・介護施設等の様々な関係機関や行政が連携し、医療介護や生活に対する切れ目のないサポートができる体制などが挙げられている。

医療機関名	病診区分	地域(圏域)の課題と将来あるべき姿
一之瀬脳神経外科病院	病院	・松本医療圏については、脳卒中疾患に対応できる病院施設がある。しかし松本医療圏の周りの医療圏(大北、木曾など)について、脳卒中に対応できる病院施設が多くないため、そちらについては松本医療圏で対応する必要があるのではと考える。
藤森病院	病院	・信大病院をはじめとする高度急性期病院、当院のような急性期病院、回復期病院の役割分担が十分にできていない。
相澤東病院	病院	・医療度、介護度の高い高齢患者が増えつつあり、在宅での療養が困難なケースがあります。中間型、療養型もしくは、13対1及び15対1の一般病床が不足している感があります。これに該当する高齢者をスムーズにサポートできるようにしなければ、高度急性期・急性期病床の後方支援調整に苦慮するケースが改善されないと考えます。
塩尻病院	病院	・塩尻市には、救急患者の受け入れを行っている病院が無く、まつもと医療センターや、相澤病院への搬送が主となっている。体制を整え、1次～1.5次救急患者の受け入れを行い、地域医療へ貢献したいと考えている。
松南病院	病院	・患者に信頼される医療機関
相澤健康センター	診療所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の福利厚生費や健保組合の運営が厳しさを増す中、労働者への健診補助の減額・減率が現実的な問題になっている。受診控え及びオプション検査控えが懸念材料である。</li> <li>・自治体は人間ドックや対策型のがん検診に補助を出し、受診率の向上を目指している。しかしながら受診場所や指定医療機関の制約から、現実的には地域の住民全てが利用し易いとは言い難い状況にある。</li> <li>・健診データの一元化により、行政との連携を強化して地域住民の健康増進と疾病予防に努める。</li> </ul>
高橋医院	診療所	・教育病院が多い地域であり、人口減少度による一律な病床削減はさけるべきと考えます。



## 今後の進め方(案)

### — 令和5年度における各医療機関の対応方針の協議方法について —

#### 【病院の場合】

- 自院の対応方針が作成でき次第、今後開催される調整会議に出席いただいた上で、自院の対応方針の内容について、説明いただくようお願いいたします。  
(調整会議に参画いただいていない病院にも出席(対面orオンライン)をお願いすることといたします。)
- 対応方針の作成状況については、各回の調整会議を開催する前に、保健福祉事務所から照会・確認させていただきます。対応方針の作成が完了している場合には、改めて調整会議への出席・説明を依頼させていただきます。(出席・説明を依頼する調整会議については、各病院の対応方針の作成状況や各回の議題の多寡等を踏まえ、事務局において調整させていただきます。)

#### 【有床診療所の場合】

- 将来意向調査で回答いただいた内容を対応方針として取り扱わせていただき、次回の令和5年度第1回の調整会議において、県から各有床診療所の対応方針を説明し、協議させていただきます。(調整会議への出席をお願いする予定はございません。)
- 調整会議での協議結果は後日共有させていただきますが、継続協議となった場合には、必要に応じて、継続協議の対象となった有床診療所に調整会議への出席を依頼させていただきます。

## 今後の進め方(案)

### — 令和5年度における各医療機関の対応方針の協議方法について —

- 調整会議で説明いただく資料については、以下を想定しております。
- 共通様式については、3月中を目途に、将来意向調査の集計結果(圏域ごと)と合わせて、将来意向調査の対象である病院に送付させていただきます。

#### 【調整会議で説明いただく資料】

##### ① 公立病院の場合

- 「公立病院経営強化プラン」(案)の概要版(※)

※様式は任意とし、2025年における機能別病床数が明記されたもので説明をお願いします。

##### ② 公的医療機関等の場合

- 2025年における対応方針(共通様式)

##### ③ 民間病院の場合

- 2025年における対応方針(共通様式)

# 本県における今後の地域医療構想の進め方 スケジュール(修正案)

	令和4年度			令和5年度			
	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
圏域別調整会議	第1回	〔必要に応じて開催〕	第2回	〔必要に応じて開催〕	第1回	第2回	第3回
	1. 各医療機関の対応方針の策定や検証・見直し 2. 構想区域全体の2025年における医療提供体制の検証					令和5年度末までに完了	
医療情勢等連絡会	必要に応じて随時開催						
県単位調整会議			第1回				第1回
将来意向調査		実施					

■ 圏域別調整会議の議題(案) ※地域医療構想に関する議題のみ 次期医療計画(案)へのご意見をいただくため開催

### 【令和4年度第2回】

- 将来意向調査の結果

### 【令和5年度第1回】

- 各医療機関の対応方針について(病院・有床診)
- 構想区域全体の2025年における医療提供体制の検証について

### 【令和5年度第2回】

- 各医療機関の対応方針について(病院)
- 構想区域全体の2025年における医療提供体制の検証について

### 【令和5年度第3回】

- 各医療機関の対応方針について(病院)
- 構想区域全体の2025年における医療提供体制の検証について